



 食の安全を中心とした取り組み

CSR報告書 2018

目次 Contents

編集方針	2
企業理念／トップメッセージ	3
会社概要	4

お客様とともに

食の安全への取り組み	5
お客様とともに	10

地域・社会とともに

お客様とのコミュニケーション活動	11
------------------	----

株主・投資家の皆様とともに

株主・投資家の皆様とともに	14
---------------	----

従業員とともに

従業員とともに	15
---------	----

環境活動

環境方針／環境マネジメント	19
事業活動のマテリアルバランス	21
環境保全活動	22

経営マネジメント体制

コーポレートガバナンスと内部統制	25
コンプライアンス・情報セキュリティ／ リスクマネジメント	26

不二家のあゆみ	27
---------	----



編集方針

不二家では、「お客様」、「地域・社会」、「株主・投資家」、「従業員」、「環境」の関わりについて、より多くの方にご報告することが、当社の果たすべきCSR(企業の社会的責任)であると考えています。2003年から環境報告書として、また2008年からはCSR報告書として毎年発行し、テーマごとに取り組み内容をご報告してきました。

本報告書では食品を製造しお届けする立場から、お客様の関心の高い「食の安全」を中心に具体的な取り組みについて報告しています。

●報告対象範囲

本報告書では原則として不二家単体を報告対象範囲としています。

●報告対象期間

2017年1月～ 2017年12月 ※一部、当該期間外における取り組みが含まれています。

●発行年月

2018年7月

■ 企業理念

社是

愛と誠心と感謝をこめて お客様に愛される不二家になります

経営理念

常により良い商品と最善のサービス(ベストクオリティ・ベストサービス)を通じて、お客様ご家族に、おいしさ、楽しさ、満足を提供する

■ トップメッセージ

「食の安全を中心とした取り組みについて」

当社は「常により良い商品と最善のサービスを通じて、お客様、ご家族に、おいしさ、楽しさ、満足を提供する」という経営理念のもと、事業活動を通じて社会に貢献し、社会と当社が持続的に発展していくことを目指しております。

1910年の創業以来、洋菓子・菓子・飲料・レストランなど、食に関する幅広い分野で100年を超える歳月をお客様とともに歩んでまいりました。食品企業として何より重要なことは、すべての消費者に対し、安全で衛生的な商品、食材を提供することと考えております。そのために、不二家は国際的な衛生管理手法である「HACCP」の導入とともに「クレームゼロ運動」に取り組んでおります。クレームをゼロにするということはたやすいことではありませんが、ゼロを目指してこそ、徹底的、根本的解決が得られると考えております。

また、不二家は店舗や工場を通じ地域・社会とともに歩んでまいりました。ペコちゃんや従業員を通して多くの方々と交流を行っており、今後もその地域でなくてはならない存在でありたいと考えております。

さらに不二家にとって、そこで働く人材はまさに会社の根幹です。労働災害の撲滅、働く環境の改善には特に力を入れており着実に成果も上がっています。

社是にある「お客様に愛される不二家になる」ためには、何が大切で、何をしなければならないかを従業員一人一人自らが考え、行動することにより、当社は社会に貢献でき、社会とともに発展できるものと考えております。

ここに記されている内容は、不二家の社会に対して果たすべき事柄です。その取り組み姿勢、活動内容をご理解いただきますとともに、今後の活動に向けて、ご意見、ご感想をいただければ幸いです。



代表取締役会長

山田 憲典



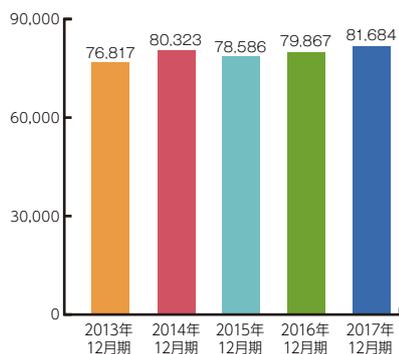
代表取締役社長

櫻井 康文

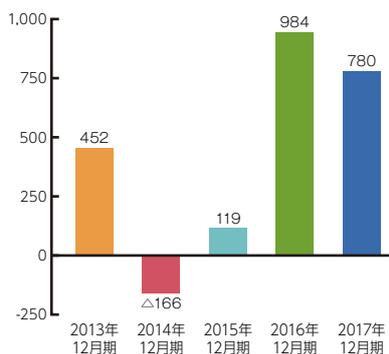
会社概要(2017年12月31日現在)

社名(商号)	株式会社不二家
本店所在地	〒112-0012 東京都文京区大塚二丁目15番6号
代表者	取締役会長 山田憲典 取締役社長 櫻井康文
創業	1910年(明治43年)11月
設立年月日	1938年(昭和13年)6月
資本金	18,280百万円
従業員数	正社員1,115名
主要関係会社	山崎製パン株式会社、株式会社不二家フードサービス、株式会社ダロワイヨジャパン 株式会社不二家東北、株式会社スイートガーデン、不二家サンヨー株式会社、不二家乳業株式会社 不二家(杭州)食品有限公司、株式会社不二家システムセンター、不二家テクノ株式会社 B-Rサーティワンアイスクリーム株式会社、日本食材株式会社
営業部・支店	東京、大阪、名古屋、福岡、仙台、札幌など全国の主要地
店舗	東京、横浜、名古屋、大阪、福岡、札幌など全国に911店舗
工場	秦野(神奈川県)、平塚(神奈川県)、富士裾野(静岡県)、野木(栃木県)、埼玉(埼玉県)、 泉佐野(大阪府)、吉野ヶ里(佐賀県)、札幌(北海道)

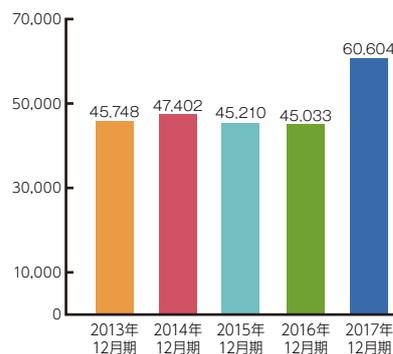
単体売上高(単位:百万円)



単体経常利益(単位:百万円)



単体総資産(単位:百万円)



事業内容

洋菓子事業	菓子事業	食品事業
ケーキ、デザート、アイスクリームなど洋菓子類の製造販売、喫茶店及び飲食店の経営	チョコレート、キャンディ、クッキーなど菓子の製造販売	飲料及び乳製品など食品の製造販売

※各商品などの詳細は、不二家ウェブサイトにてご覧いただけます。
不二家ウェブサイトURL <https://www.fujiya-peko.co.jp/>

その他事業

業務内容：通販・キャラクター事業および不二家システムセンターの事務受託業務及び不動産の賃貸、管理など

お客様とともに

お客様と不二家の信頼関係は、商品のおいしさと同時に、安全な品質のうえに成り立っていると考えます。

商品のおいしさを追求するとともに、お客様に安心してお召し上がりいただける商品を提供する努力を、CSR活動の最優先課題として取り組んでいます。

● 食の安全への取り組み

品質管理体制

不二家は、社長直轄の組織である食品安全衛生管理本部を中心に、常にお客様の視点に立ち、さらなる満足をご提供するため、食品安全に努めクレームゼロを目指しています。

第一に、AIBやISO9001といった科学的根拠に立脚した食品管理システムを導入し、第二に、このシステムを有効に機能させるための安全衛生管理組織の確立を図り、第三に、システムを維持、運営、改善し、組織を活性化させる柱となる従業員教育を行っています。2017年は、2018年に予定される食品衛生法の改正^{*}に向け、店舗においてHACCPに沿った衛生管理手法の導入に取り組ましました。

さらに、現場に即した「本物の5S活動」により、より安全で衛生的な環境作りを行っています。

食品安全衛生管理本部は「食品安全管理部」と「食品品質管理部」の2部門体制のもと、組織強化を図っています。

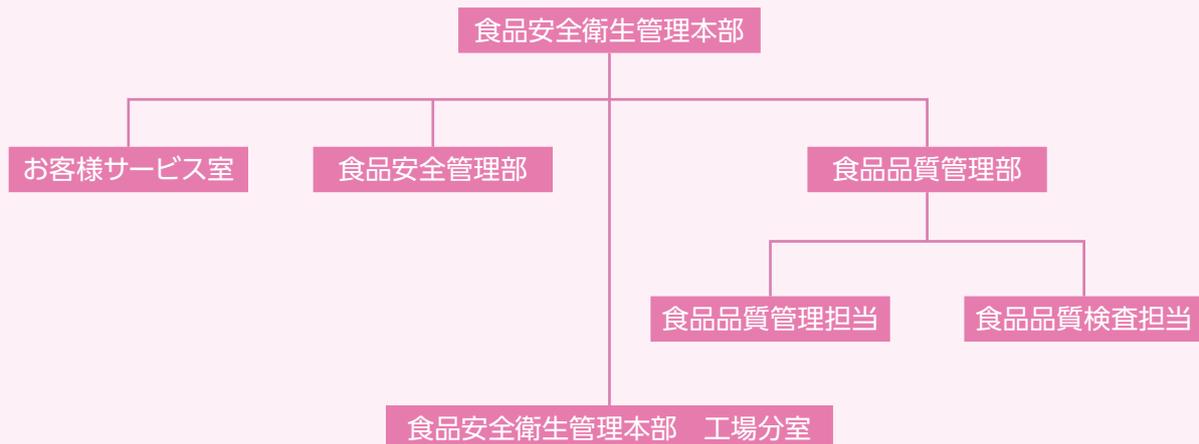
また、各工場に食品安全衛生管理本部の組織として分室を設置し、業務の独立性を高め、チェック機能を強化するとともに、細菌検査体制などについても設備の充実、人員の強化を行っています。

^{*}すべての食品事業者に対して、一般衛生管理に加えHACCPに沿った衛生管理の実施が求められることになります。



店舗におけるHACCP認証予備監査の様子

食品安全衛生管理本部組織図



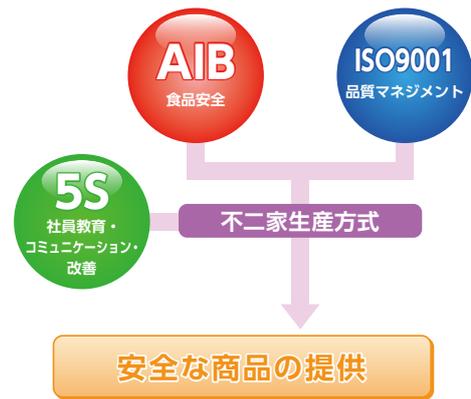
クレームゼロを目指す取り組み 不二家生産方式

不二家ではクレームゼロを目指すために、経営陣の強い意志のもと、次の3つに取り組んでいます。

- ①健全で安全な食品を提供するための「AIB 国際検査統合基準」に基づくAIBフードセーフティへの取り組み
- ②お客様満足の向上と製品・サービスの品質の維持・向上のための品質マネジメントシステムである「ISO9001:2008」の運用*
- ③より安全で衛生的な生産環境作りのための、全員参加・全員活動の「本物の5S」への取り組み

これらの活動が工場において相互補完し、ひとつの「不二家生産方式」として統合・機能すべく、日々取り組んでいます。また、本社や店舗においても工場の取り組みを参考に活動し、クレームゼロを目指し、食品安全の維持・向上に努めています。

※ ISO9001を運用している菓子製造工場は、2018年のFSSC22000認証取得に向けた活動を行いました。



不二家におけるAIB(American Institute of Baking)フードセーフティの取り組みについて

不二家では2007年2月より、洋菓子製造5工場、菓子製造3工場のすべての工場でAIBフードセーフティに取り組んでいます。AIBフードセーフティとは、米国にあるAIB(米国製パン研究所)が食品安全衛生に関する法律・規則を基に独自に設定した「AIB国際検査統合基準」に則って、食品安全衛生管理を有効に機能させるために行う活動です。「AIB国際検査統合基準」には、原材料の入荷から製品の出荷までの安全性を確保するために、下記の5つのカテゴリーで構成されています。

①作業方法と従業員規範

製品が従業員や生産工程によって汚染されることを防ぐ方法を示しています。

②食品安全のためのメンテナンス

施設や設備が衛生上、及び食品安全上の危害を招かないように、最適な設計や保全方法を示しています。

③清掃活動

製品の汚染を回避するための清掃に関するガイドラインを示しています。

④総合的有害生物管理

有害生物(鼠族、昆虫類)による食品の汚染を避けるための管理方法を示しています。

⑤前提条件と食品安全プログラムの妥当性

前提条件プログラムを施設全体に一貫して実施していることを確実にするための基準を示しています。



ICタグによる入場(平塚工場)

各カテゴリーで守る事項が詳細に決められており、合わせると約100項目になります。AIBでは、外部専門機関による監査があり、点数で評価されます。「AIB国際検査統合基準」の5つのカテゴリーが各200点の配点を持ち、総合評価として1,000点満点で採点されます。

不二家ではこの外部専門機関によるAIB監査を受け、全ての工場で合格点を獲得しています。現在も「AIB国際検査統合基準」に則り、各工場において各部門の代表者から構成される自主検査チームを結成し、月1回、全ての製造設備に対して「AIB国際検査統合基準」に適合しているかの確認のため自主検査を実施しています。そこで不適合な箇所を抽出し、必要な改善措置を計画的に進めています。改善措置については、月1回実施している「食品安全衛生委員会」で改善進捗確認を行い、常にシステムの維持向上に努めています。

さらに、AIB活動のレベルアップのために、毎年、菓子製造工場の秦野工場、平塚工場、富士裾野工場、洋菓子製造工場の埼玉工場、野木工場、泉佐野工場で外部専門機関によるAIB監査を受け、工場の食品安全衛生管理の強化に努めており、2018年も順次実施していく予定です。また、当社子会社不二家フードサービスのレストラン店舗についてもAIB監査を実施しています。その他、フードディフェンス(食品への意図的な異物混入の防止)についても、各工場に品質保証カメラを設置するなど対策を進めています。

ISO22000:2005 およびFSSC22000 への取り組み

不二家菓子事業本部では、食品安全体制の更なる強化を目的として、従来取得していた品質マネジメントシステム (ISO9001:2008) から食品安全マネジメントシステム (ISO22000:2005)^{*1}及び食品安全システム認証 (FSSC22000)^{*2}に移行するため、2017年8月に食品安全品質方針を掲げました。

食品安全マネジメントシステム (ISO22000:2005)の適用範囲は菓子製造3工場だけでなく関連する本社部門も含んでおり、菓子事業本部全体で食品安全について考え、日々取り組んでいます。

全体マネジメントの運営や統括として、社長・各部門長などをメンバーとして食品安全チームを編成し、定期的開催するFMS会議^{*3}のなかで、食品安全・製品品質に関する議論や各部門への指示を出しています。

さらに工場では工場長・各部門長をメンバーとした食品安全工場チームを編成し、FSSC22000運営のほか、FMS会議での指示事項の徹底を行い、工場の活動に繋げることで、本社部門と工場が一体となった食品安全管理体制の構築を図っています。

2017年11月に内部監査を実施するため、外部講師によるISO22000:2005およびFSSC22000内部監査員教育に合計163人が参加し、食品安全に対する考え方を改めて学ぶ機会となりました。その後各部門から選抜された内部監査員が他工場・他部署に赴き、各部門で掲げた食品安全品質目標への取り組みや、社内のルールに基づいた生産活動を行っているかの確認を行いました。良い活動は自部署に持ち帰って水平展開することで、各職場のリーダー、若手社員、パートナー社員を含めた食に関わる全員の意識と技術の向上を図っています。

2018年1月～3月に本審査を受け、4月に適用範囲で認証取得となりました。今後も、食の安全・安心とお客様満足のため、継続的な改善活動を行ってまいります。

※1 ISO22000:2005 適用範囲 (2018年4月現在)

菓子事業本部、食品安全衛生管理本部、秦野工場、平塚工場、富士裾野工場、購買部、施設部 [統括部、広域営業部、食品品質検査担当、食品安全衛生管理本部洋菓子工場分室は除く]

※2 FSSC22000 適用範囲

秦野工場、平塚工場、富士裾野工場

※3 FMS会議

食品安全システムが有効に機能しているかをチェックするために開催する会議

食品安全品質方針

- (1) 当社はお客様に満足いただける、安全で品質のよい商品とサービスを提供します。
- (2) 関連法規を守り、安全・安心な食品安全マネジメントシステムを確立し、運用します。
- (3) 作業ルールの遵守はもとより、開発、製造各段階の流れと責任を明確にして、食品事故およびクレームの発生防止に努めます。
- (4) 食品安全マネジメントシステムの有効性について継続的な改善を行います。
- (5) 風通しのよい企業風土を作り、社内および外部関係者との積極的なコミュニケーションを図ります。

食品安全品質方針の達成のため、各部門の目標を設定し、レビューするとともに、全体に周知徹底します。

2017年8月1日
株式会社 不二家
代表取締役社長 櫻井 康文

内部監査風景



製造ラインを監査し、質疑応答する様子



改善活動の取組みについて熱心に議論する様子

Voice!

食品安全に関する取り組みをより一層強化するため、FSSC22000の認証取得を目指して2017年3月より、FSSC22000の規格構築に取り組んできました。その中の活動の一つであるHACCPプランの構築では、原料の受入から製品の出荷に至るまでの各製造段階で予想される全ての危害を挙げ、それぞれの危害に対して管理方法を考え実施してきました。FSSC22000を導入することでクレームゼロの目標へも前進し、より安全・安心な商品をお客様にお届けしていきたいと考えています。

食品安全衛生管理本部 富士裾野工場分室 兼清 美帆



本物の5S活動

2009年に工場からスタートした「本物の5S」活動は、これまで、洋菓子直営店舗、本社部門、営業支店へと活動を広げ、「安全で、生きがい、やりがいの持てる職場づくり」を目指し、全員参加の活動として推進してきました。

2017年度は「クレームゼロ」を活動の基本方針とし、洋菓子工場では、三現主義（現場、現物、現実）の考え方にに基づき、職場から3K・3Mの排除や工程管理・品質管理に取り組み、成果を出しています。菓子工場では、職場ごとに職制・一般職社員・パートナー社員を含んだ5Sチームを編成し、管理職が設定した課題（労働安全衛生、収益向上、品質向上）に対し、各職場の5Sチームが課題解決に取り組むための具体策を考案、実施することで工場一丸となった活動を行っています。

今後も5S活動を通してお客様の笑顔のために何ができるかを各部門、職場のチームで検討し取り組んでいきます。

Voice!

5S活動に取り組むことにより、職場を整理・整頓することを心掛けるようになりました。職場のチームとの話し合いを通じて、積極的に働きやすい職場作りを行い、今後もチーム一丸となり、きれいな職場づくりを目指し、5S活動を推進していきます。

秦野工場 秦野工場キャンディ課 組長 成田 健太



5S導入以来、『働きやすい職場』をテーマに活動を行っています。朝礼・昼礼・終礼の3礼を通じてパートナーの方から様々な意見をいただき、改善に取り組んでいます。『ムダをなくすにはどうすればよいか』『清潔な職場を保つためには何が必要なのか』など一歩下がって自分自身の目で職場を見ることも大事にしています。今後も継続して、職場の意見や自分の目で見て気づいたことを改善し、5Sを通して働きやすい職場づくりを進めていきます。

泉佐野工場 洋菓子製造第二課 班長 田邊 史織



防災への取り組み

不二家は、2012年6月に埼玉工場の製造ラインの一部を焼失しました。被害は軽微でしたが、この火災を機に防火・防災体制を見直しています。また、地震などの自然災害に備えるため本社と工場では「防災巡回点検」を毎月実施しています。自然災害からの二次災害につながるリスクを摘み取り、消火栓や消火器などの機器が定位置にあるか、棚や書庫などが転倒しないように固定されているかを徹底して確認していきます。さらに本社でも避難通路の確保、身の回りの整理整頓ができていないかを毎月巡回し確認することや防災に関する教育も実施しています。



工場の防災巡回点検の様子



本社の防災巡回点検の様子

「不二家食品安全の日」について

不二家では11年前の2007年1月に起きた一連の問題から、毎年1月11日を「不二家食品安全の日」と定め式典を行っています。不二家の従業員一人ひとりがこの問題を忘れず、一連の問題を風化させることのないよう今一度振り返ることを目的としています。2018年は、1月9日(火)に不二家本社にて、第11回「不二家食品安全の日」の式典を行いました。

今年は、元消費者庁長官で、現在雪印メグミルク株式会社の社外取締役や一般社団法人消費者市民社会をつくる会(ASCON)の代表を務めておられる阿南久先生にご講演をいただきました。ASCONでは、消費者庁や消費者団体での経験を活かし、企業とのディスカッションや勉強会など、消費者と企業の対話を目的としたさまざまな活動をしておられます。

ご講演では、2000年以降食中毒をはじめとして、いろいろな企業で事件・事故が起きてきた中で、さまざまな問題を未然に防ぐことや一度起こしてしまった事件を繰り返さないためにも、事件を「忘れない!」、「忘れない!をクセにする」、「忘れない!を監視してもらう」ことを社員が意識することが大切だと話されました。2007年に不二家の問題があった時、消費者団体で批判する立場にいたが、窮地から立ち直り、十数年経った今でもこうして毎年「不二家食品安全の日」を設けて取り組む姿勢や創業者である藤井林右衛門氏の「二つとない存在でありたい。お菓子で世の中を幸せにしたい。常によりよい製品、サービス。お客様あってのわれわれだ。」という素晴らしいお言葉を改めて考え、今後の仕事に活かしていただきたいと話されました。

山田講話

会社の理念には創業者の想いが詰まっており、その考え方は今の時代に置き換えても通じるものです。この想いを改めて考え、念頭に置きながら気を引き締めて仕事に取り組んでもらいたい。今年のスローガンを“革新”とし、チャレンジ精神を忘れず、新しく創造する不二家にしていきたい。

櫻井講話

世の中は日々変わっています。お客様目線と一言で言っても、ただクレームを減らすだけではいけません。社会的な貢献度もお客様は見ています。チョコレートひとつとっても、原料であるカカオ豆は赤道付近でしか生産できず、生産地の労働者には貧困が大きな問題となっています。従業員一人ひとりが、こうした視点にまで視野を広げて仕事をする必要があります。



先生講演の様子



会場の様子

お客様とともに

お客様への情報発信

不二家ウェブサイトでは、お客様が必要としている情報を積極的に発信しています。

お客様に安全な商品をお届けするための取り組みをお伝えする「不二家の取り組み」や、お客様から数多く寄せられる質問を回答とともに掲載する「お客様窓口」など、コンテンツを充実させ、積極的な情報発信を行っています。

今後も、最新の情報をすばやくお客様にお届けできるよう努めていきます。



お客様窓口

お客様からいただいた声

2017年1月から2017年12月の間に、お客様から18,748件のお問い合わせやご意見、ご指摘をいただきました。その内訳は、14,783件がお問い合わせ・ご意見であり、3,965件がご指摘事項でした。

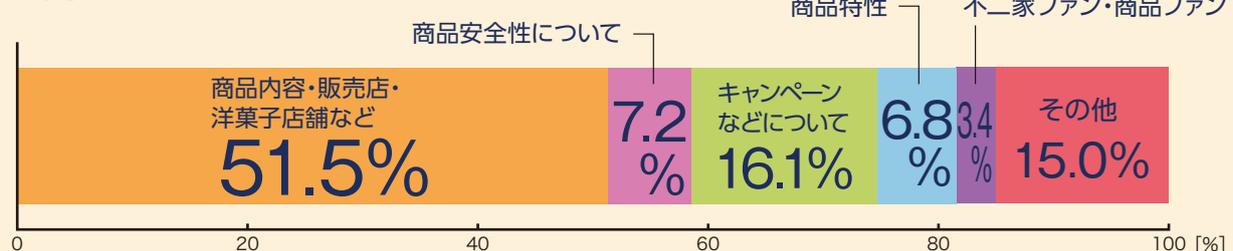
お問い合わせ・ご意見のうち、51.5%が商品内容や販売店、洋菓子店舗の営業についてのお問い合わせであり、7.2%が商品の安全性(アレルギーなど)に関するものでした。

お客様からのお問い合わせの多いキャンペーンなどについては、ウェブサイト内の情報ページにて随時公開しています。また、商品特性(成分、カロリー情報など)については、ウェブサイト内の商品情報ページにて公開しています(洋菓子事業本部商品の一部を除く)。なお、洋菓子店舗では商品のプライスカードにアレルギー情報を掲載しています。

そのほか、フランチャイズオーナーの募集などについてのお問い合わせも数多くいただくため、ウェブサイトでは専用の「お問い合わせフォーム」を設置しています。

今後も、より幅広い情報提供ができるよう努力していきます。

お問い合わせの内訳



地域・社会とともに

● お客様とのコミュニケーション活動

夏休み企業体験学習

不二家では、事業所の周辺地域の皆様と、さまざまなコミュニケーション活動を実施しています。

2017年8月8日には、神奈川県秦野工場にて、夏休み企業体験学習の一環として「ペコちゃんと遊ぼう！オリジナルカントリーマム手作り体験」を開催しました。当イベントは、秦野市こども育成課が、地域産業や仕事の大切さを学ぶこと、子供同士の交流や親子の絆を深めることを目的に主催し、不二家が協力したものです。

多くの応募者の中から抽選の結果、親子11組(22名)が参加されました。カントリーマムの生地伸ばし方、トッピングの注意点、並べ方等についての説明のあと、早速親子で挑戦しました。その後クッキーが焼けるまでの間、カントリーマムの製造現場の見学が行われ、カントリーマムが安全で衛生的な環境で作られていることを学び、たくさんの製品が出来上がる様子に感嘆の声があがりました。参加者の方々には、ペコちゃんとの交流を通して、食やコミュニケーションの大切さを学んでいただき、楽しい夏休みの思い出を作っていました。



作り方の説明を熱心に聞く子供たち



カントリーマムの製造工程を見学



ペコちゃんと一緒に記念撮影

職場訪問の受け入れ

不二家では、中学校や高校からのご要望にお応えし、職場訪問の受け入れをしています。

2017年には、年間で63校の職場訪問を受け入れました。不二家の歴史や企業概要、キャラクター紹介、商品紹介、商品企画のプロセス、商品にまつわるエピソードなどを、プレゼンテーションツールを使用してわかりやすく説明し、不二家の理解を深めていただいています。

また、生徒さんからの質問に答えたり、新商品を試食してもらうなど、真剣な中にも楽しい時間を過ごしていただいています。



熱心に説明を聞いている様子

文京区・NPO・企業が協働した「こども宅食」プロジェクトに協力

～「ふるさと納税」を活用し、貧困子育て世帯に食品を届ける～

文京区は、NPO法人などと資金協力体制を形成し、経済的に困窮する文京区内の子育て世帯に、企業・フードバンク等から提供を受けた食品等を宅配する「こども宅食」プロジェクトを発足させました。不二家は、文京区からの依頼を受けお菓子を無償提供しています。このプロジェクトは資金調達において、文京区のふるさと納税制度を活用しています。返礼品は用意せず、集まった支援金を事業推進に活用し、企業は商品を無償提供しています。貧困世帯で暮らす子ども達は、衣食住に加え、学習機会や様々な経験の不足にもつながり、格差が拡大しています。



ペコちゃんが行く！ 不二家キャラバン隊

「ペコちゃんが行く！ 不二家キャラバン隊」は、不二家が2010年に創業100周年を記念して開始しました。ペコちゃんがキャラバンカー「ペコちゃん号」に乗って、全国の幼稚園や保育園の児童施設を訪問。ペコちゃんからのクイズやペコちゃんダンスなど、園児がペコちゃんと一緒に楽しめるプログラムです。

2017年は、1都7県54カ所の園を訪問しました。



クイズの様子



ダンスの様子

ペコちゃんキッズアカデミー

「ペコちゃんキッズアカデミー」は、自然と食の大切さを学び、家族の絆を深めることを目的に、2011年よりスタートした、不二家ファミリー文化研究所主催のお客様向けのイベントです。

2017年4月4日、神奈川県平塚市の「花菜(かな) ガーデン」にて第7回を開催し、9組19名の親子が参加しました。オリジナルトリュフチョコ・カントリーマアム手作り体験では、お菓子を作ることの難しさや楽しさを学びました。家族の絆を深め、ペコちゃんと一緒に楽しい思い出を作っていただけのイベントです。



みんなで記念撮影



作り方の説明を熱心に聞く子供たち



上手にできたオリジナルカントリーマアム

銀座柳まつり

2017年5月5日こどもの日に、第11回「銀座柳まつり」が開催されました。今回は「希望」をテーマに、パレードやコンサートなど、盛りだくさんのイベントが実施されました。ペコちゃんは、いつものオーバーオールから浴衣姿に変身し、人力車に乗ってパレードに参加しました。レトロ遊び広場での記念撮影会では、見たことがない衣装に身を包んだペコちゃんに、集まったファンは大喜び。ペコちゃんも多くのファンに囲まれ、触れ合うことができ喜んでいました。

銀座でもペコちゃんは大人気！ 大勢の方々楽しい時間を過ごしました。



人力車に乗ってパレードに参加

元町ハロウィン

毎年恒例で開催されている「元町ハロウィン」が、2017年も横浜・元町で開催されました。お店のスタッフが色々な仮装でお子様を出迎え、店頭でお菓子を配る手作り感あふれるイベントです。

最近、ハロウィンの人気が高まり、仮装して参加される親子も非常に多くなり、年々盛大になっています。ハロウィンを楽しみながらも、「ありがとうの気持ちを伝える大切さ」をお子様たちに体験していただけるのが、このイベントの魅力の一つです。

不二家は、お菓子とお子様を「ありがとう」の言葉でつなぐこのイベントの趣旨に賛同したこと、また、不二家にとって横浜元町は、1910年(明治43年)に初めて洋菓子店を開いた「発祥の地」であることから、2007年より、ペコちゃん・ポコちゃんがハロウィンの衣装で参加。元町にいらしている方々との交流を深めています。



ハロウィン衣装のペコちゃんとポコちゃん



元町ショッピングストリートを練り歩くペコちゃんとポコちゃん

【不二家ファミリー文化研究所とは】

不二家ファミリー文化研究所は、私たち不二家の「もっともっとファミリーの幸せに貢献していくためには何ができるだろう?」という想いから2003年4月に誕生しました。

不二家ファミリー文化研究所の所長は、研究所の創始者であり、現在は社長である櫻井康文が兼務しています。

テーマは「伝えていきたい自然 伝えていきたい家族の絆」。

自然から生み出される食材を扱う私たちにとって、言うまでもなく大切な「自然」を守っていくこと。そして、「ファミリーの不二家」という理念のもと、お菓子を通じて家族の幸せな時間を作るお手伝いをしてきたこと。それらのことを、今後も具体的に行動し伝えていくための研究所です。

【活動内容】

不二家ファミリー文化研究所は、「家族について考え、絆を深めていただけるきっかけ作りのお手伝い」や、「次世代に残していきたい自然や文化についての知識を、私たち自身が深め、伝える活動」「お菓子に対する興味喚起や情報の提供」などを行っています。

具体的な活動として、ウェブサイト「ペコちゃんの森」の運営や、長野県黒姫にある「ペコちゃんの森」の整備活動への参加、「食育」や「自然」、「家族の絆」をテーマにしたイベントの企画、運営及び支援をしています。

【ウェブサイト「ペコちゃんの森」】

不二家ファミリー文化研究所の設立とともに、ウェブサイト「ペコちゃんの森」(<https://www.fujiya-peko.co.jp/mori/>)を立ち上げています。

ウェブサイト「ペコちゃんの森」は、毎月25日に定期更新を行い、不二家ファミリー文化研究所が行うさまざまな活動を、楽しみながらご覧いただけるご報告の場になっています。また、お客様とのコミュニケーションの場としても活用しています。



ウェブサイト「ペコちゃんの森」コンテンツ

●親子イベントなどの公募

「食育」「自然」「家族の絆」などをテーマにしたイベントの紹介や参加募集の告知、全国の児童施設を訪問している「ペコちゃんが行く! 不二家キャラバン隊」の訪問先募集の告知などを行っています。

●「スマイル」をテーマにした川柳の募集

家族の絆を感じる出来事、笑顔になる家族とのエピソード、家族に起こった面白いハプニングなどを、川柳で募集しています。

●世界の文化についてのご紹介

「ERIKO&ペコちゃんの旅」では、モデル・定住旅行家のERIKOさんが、世界の様々な国・地域で、現地の人々の家庭で暮らし、その食文化や、生活習慣、季節のイベントや誕生日などのお祝いについて、ペコちゃんと一緒に、写真を交えて紹介しています。

●アンケート調査の実施

「家族」や「夫婦」、「日本の文化」など、さまざまなテーマを基にアンケート調査を実施し、調査結果を毎月ご紹介しています。

このほかにも、パソコンでご利用いただけるペコちゃんの「壁紙カレンダー」の無料配信や、不二家ファミリー文化研究所が参加したイベントのご報告、黒姫のペコちゃんの森の様子なども、随時ご紹介しています。



株主・投資家の皆様とともに

IRツールによる情報開示

不二家はIRツールを使って、株主・投資家の皆様と綿密なコミュニケーションを図っています。各種IR情報を充実させるとともに、より見やすく、わかりやすい情報の提供に努めています。

IR情報

●ウェブサイト

<https://www.fujiya-peko.co.jp/company/ir/>

IR関連ニュースによる情報発信や財務ハイライトページなど、各種IR情報を充実させるとともに、より見やすく、わかりやすい情報の提供に努めています。



●報告書

事業活動の概況などに加え、不二家の新しい取り組みや新商品情報など、内容を充実させ、株主様のお手元にお届けしています。不二家ウェブサイトにも報告書を掲載しています。



株主優待制度

年1回の権利確定日*現在の株主様に対し、3月上旬に発送する「定時株主総会招集ご通知」に株主ご優待券を同封し、送付しています。

※権利確定日…毎年12月31日の最終の株主名簿に記載のある株主様。



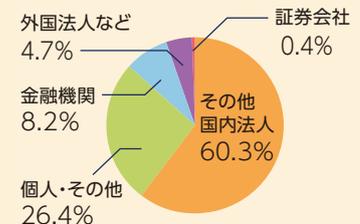
株主ご優待の基準及び内容

株主ご優待券は、当社グループ店舗（一部店舗除く）でご利用いただけます。株主様に当社商品をお試しいただき、ご意見などを承っております。

所有株式数	ご優待内容
100株から499株まで	株主ご優待券 500円券×6枚
500株から999株まで	株主ご優待券 500円券×8枚
1,000株以上	株主ご優待券 500円券×12枚

※2016年12月末時点までは、1,000株以上保有する株主様を株主優待制度の対象としておりましたが、株式併合に伴い、2017年12月末時点からは、100株以上保有する株主様を対象とした株主優待制度に変更いたしました。

所有者別株式数



2017年12月31日現在

株主様アンケート実施

株主総会に出席された株主の皆様にはアンケートを実施し、当社に対する貴重なご意見をいただいています。今後も、株主総会を株主様の声を直接お伺いすることができる大切な機会と捉え、より多くの株主様にご満足いただける運営を目指してまいります。



第123期定時株主総会



商品展示の様子

従業員とともに

人材育成

不二家の人事制度の最重要ポイントは、「従業員がやりがいのある仕事に携わり、夢を実現させるための仕組み作り」です。従業員自身が働く中で「幸せ」を感じるこそが、商品・サービスを通じてお客様に「幸せ」を提供することへの近道と考えています。

2017年の取り組みとして、正社員を対象に企業理念の階層別研修を実施しています。基本に立ち返る意味で、企業理念の理解を深め、企業理念の達成に向けて、組織・個人の具体的な行動計画を作成し、実行・成果に結びつける目的があります。まず、研修単位は工場や本社ビルといった事業



所単位で、階層は次長職までの管理職と一般社員の階層に分かれ実施します。経営トップからのメッセージ動画を見るプログラムもあり、進行は部署の垣根を越えた形で進みます。数人の班に分かれて事前に出される宿題を持ち寄り、各自の情報を共有、各所属部署の課題の抽出、解決策の検討なども行います。こういった内容を1日で行うカリキュラムになっています。

また社内での世代交代が進む中、人材の即戦力化が求められており、若年層、特に新人教育を重視し、OJTをはじめ、コース・職種・役割・資格別などに作成した教育プログラムを実施しています。入社年次の若い大学・大学院卒社員に対しては、年次毎に段階を踏んだ内容のフォローアップ研修を行ってきました。この研修は課題設定力、問題解決力、コミュニケーション力とチームワーク力の養成に力点を置いた内容となっており、本人の社会人としてのキャリアデザインの構築や振り返りと再考の機会も設けているので、自ずと自己啓発を促すようになっています。また若手の昇格者対象の「ランクアップ研修」も毎年実施しています。高校卒業の新卒社員が対象の研修も毎年行っており、社会人としてのマナー教育からリーダーシップ力の強化等を目的にフォローアップ研修を実施しています。

以上のように、年齢や入社年次に関係なく、基本に立ち返っての正社員対象の研修、またこれから会社を支える若年層にも一層のフォローすることで人材の育成に努めています。併せて2017年は働き方改革の促進を目的とした講演会「成果を出す仕事の仕方とワークライフバランス」や健康意識を高めることを目的とした「健康・体力増進セミナー」を開催、自己啓発を目的とした語学講座(フランス語講座)も始めました。



また社内での世代交代が進む中、人材の即戦力化が求められており、若年層、特に新人教育を重視し、OJTをはじめ、コース・職種・役割・資格別などに作成した教育プログラムを実施しています。入社年次の若い大学・大学院卒社員に対しては、年次毎に段階を踏んだ内容のフォローアップ研修を行ってきました。この研修は課題設定力、問題解決力、コミュニケーション力とチームワーク力の養成に力点を置いた内容となっており、本人の社会人としてのキャリアデザインの構築や振り返りと再考の機会も設けているので、自ずと自己啓発を促すようになっています。また若手の昇格者対象の「ランクアップ研修」も毎年実施しています。高校卒業の新卒社員が対象の研修も毎年行っており、社会人としてのマナー教育からリーダーシップ力の強化等を目的にフォローアップ研修を実施しています。



新入社員教育の様子

社内公募制度

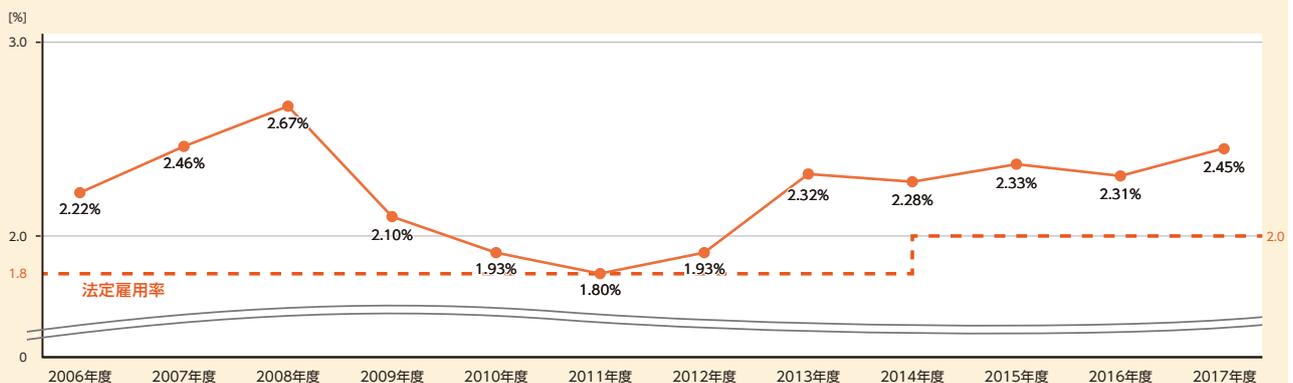
個人のモチベーションアップや、組織の活性化などを目的とした人事制度「社内公募制度」を導入しています。社員主体による配置転換の自由度を高めることによって、人材流動化促進、スキルや意欲のミスマッチ解消、適材適所を実現し、社員が最も力を発揮できる環境を整えるものです。

不二家における社内公募制は、「社内求人型」です。会社が必要とするポストや職種の要件をあらかじめ社内に公開し、応募してきた社員の中から必要な人材を選抜する仕組みです。この制度の導入後、自身のキャリアアップを目指し、複数の社員が公募を通して新しいポストに就いています。

障がい者雇用

全国の工場を中心に本部事務職等も含め、障がい者雇用に取り組んでいます。2004–2012年度までは法定雇用率1.8%以上に相当する障がい者雇用数を維持してきました。2013年度より法律が改正され、法定雇用率は2.0%となりました。2017年3月末現在の障がい者雇用者数は2.45%相当とその基準を維持しています。2018年度より、身体、知的に加え精神障がい者も算定基準に入り法定雇用率が2.2%となりますので、法律の趣旨に沿い、さらに取り組み強化する必要があると考えています。

障がい者雇用率表



高齢者雇用

法的、社会的要請の観点からだけでなく、社員にとって魅力的でかつ働きがいがある会社であるために、定年退職までの豊富な経験と技術を持っている社員の再雇用を行っています。満60歳に達する社員の再雇用の希望の有無や本人の勤務形態、勤務地等の労働条件の希望も考慮の上、本人が有するスキルに合致すると会社が判断した職務を提示して、合意の場合に継続雇用する「再雇用制度」(60歳定年後)を導入しています。2017年3月15日現在で123名が再雇用者として在籍しています。

育児と介護を支援

育児や介護を行う従業員が仕事と家庭を両立できるよう、育児介護を支援する制度を設けています。不二家での2017年度育児休業者は42名(うちパートナー社員10名)、短時間勤務制度利用者は33名でした。男性の育児休暇取得者は1名でした。時差勤務制度を導入しており、今後も制度利用を促進するために様々な施策を講じていきます。

労使協力関係

管理職及び経営に関する部署の人員を除く全社員が「不二家労働組合」に加入しています。労使間では、健全な企業経営と企業の永続的な発展を目指し、「労使協議会」「経営協議会」を開催して、経営側と組合側とが諸問題について忌憚のない意見交換を行っています。これにより、経営上の課題改善や、人事労務関係の諸施策導入など、スピーディな対応を行っています。

不二家はお客様に、安全な商品をお届けするために、従業員の安全・健康に配慮し、全従業員が安心して働くことの出来る職場環境作りが不可欠である、と考えています。そのために、労働災害の防止や、心身の健康維持増進に向けた施策を実施しています。

労働安全に対して経営トップから強い意志が示され、全社的な労働安全方針の策定や安全対策の実施、情報共有などを行う「中央労働安全衛生委員会」と全国の工場、営業所・支店、また直営店舗(エリア毎)の「労働安全衛生委員会」を組織しています。

近年は、法律改正や社会情勢の変化にも対応する為、現場での問題解決だけでなく、他事業所での赤チン災害も含めた労災の情報共有と対策の水平展開をしています。また時間外労働の原因の分析と必要な場合は発生の予防策の検討、また防災面での職場の状況チェックと管理の徹底等、委員会の機能を十分に活用するよう取り組んでいます。

また、労働組合も含めた中央労働安全衛生委員会メンバーによる、年に1回全国の工場巡回も継続して行っており、非定常の作業のチェックとして清掃作業の動画を撮影して検証しています。危険箇所の抽出とリスクレベルの設定と対策、そして同時に本質安全化の検討もすすめ、危険の除去だけでなく、働きがいのある快適な職場作りの確立を進めています。これらの取り組みの結果、労働災害(※)の発生件数は2010年度39件あったものが、2015年3件、2016年度4件、2017年度2件と減少傾向にあります。



労災害防止のための工場巡回の様子

●不二家労働安全衛生基本理念

「常に活力ある企業であるために、
社員の安全と健康の確保を第一とし、
働きやすく、快適な職場作りを行います。」

- ①労働災害ゼロを目指します。
- ②健康管理の対策を講じ、社員の健康維持増進を進めます。
- ③正規社員だけでなく、パートナー社員など臨時社員を含めた全社員で労働安全衛生の取り組みに参画し、全社員で労働安全衛生の認識を共有します。

2017年スローガン

「愛」を行動に！進めよう「快適安全な職場づくり」

同時に車両事故災害の撲滅を目指して、事故を3段階にレベル分けして連絡体制をとっています。また、従来の労働安全衛生委員会とさらに細分化した事業所単位での安全委員会を開催しています。2017年は繁忙期に向けて交通安全講習会も実施しました。

さらに、2017年もストレスチェックを実施しました。厚生労働省の職業性ストレス簡易調査票(57項目)を用いて4月~12月の間で事業所ごとに実施しています。事業所の規模に関係なく約2800名を対象に集団分析も行いました。今後も、各個人のセルフケアの充実と職場の改善を図るよう努めてまいります。

担当者の声



人事部
今泉 健

当社のストレスチェックも2年目を終了しました。当社の場合、事業所は本社ビル、工場、営業支店、店舗と様々な業態がある為、実施時期、シートの配布や回収等を各業態毎の状況に合わせています。また産業医の先生方のご尽力には感謝申し上げます。

今後も、調査結果後の従業員各個人のセルフケアの充実、そして集団分析のデータを活用する為にも回収率の維持とアップを図るよう取り組みを進めていきます。

社内情報の共有

不二家は、部署を越えて横断的に集めた社内若手メンバーを中心に小委員会を運営し、2種類の社内報を発行しています。

毎週金曜日に発行している週刊社内報「WEEKLY Sweetee!! (ウィークリースウィート!!)」は、社内イントラネットに掲載。社内情報のいち早い共有を目的に、各事業部や、工場、本社部門に加え、不二家グループ各社の情報を毎週発信しています。新商品や新店舗、工場やエリアごとの取り組みやイベントなど、さまざまな情報を紹介しています。



「WEEKLY Sweetee !!」



「Sweetee!!」

年3回発行している冊子の社内報「Sweetee!! (スウィート!!)」は、「今の不二家をみる! 明日の不二家を考える!!」をテーマに、経営者からの情報発信をはじめ、日常業務で役立つ企画や、新商品情報、従業員の趣味や意外な一面を紹介するコーナーなどバラエティに富んだコンテンツを掲載し、従業員間のコミュニケーションツールとしても活躍しています。



社内報小委員会のミーティングの様子

担当者の声



総務人事本部
広報 CSR部 広報室
土田 愛

「WEEKLY Sweetee!!」「Sweetee!!」は、工場や営業支店、生産部、購買部、経理部、人事部、広報室といったさまざまな部署の若手社員で制作を担当しています。社内報という社員のコミュニケーション活性化ツールを作り上げる過程で、制作担当者自身も他部署の情報を知り、通常業務では接しない社員と接することで、コミュニケーションの向上を図っています。社内での何気ない会話から、ぜひ紹介したいと思う面白い情報を得ることも多く、日常からのコミュニケーションの大切さを実感します。

さまざま部署の情報をなるべく多く、タイムリーに「WEEKLY Sweetee!!」で伝えること、そして紙媒体の社内報「Sweetee!!」では、より多くの社員に登場してもらうことで生の声を紹介し、それが社内での会話のキッカケになればという想いで制作しています。

環境活動

不二家は、省資源、省エネルギー、CO₂削減などの環境保全問題への取り組みを通して、より良い商品とサービスをお客様に提供できるよう努めています。ISO14001活動の中で、従業員の環境意識向上にも取り組んでいます。

環境方針

【環境方針について】

不二家は「環境基本理念」「環境基本方針」に基づいて、従業員一人ひとりが当社の果たすべき責任と役割を認識し、低炭素社会、循環型社会の実現に寄与する「地球にやさしい企業」を目指してまいります。また、積極的に地球環境、生態系への負荷を低減し、気候変動リスクを常に意識しながら生物多様性の保全と資源の有効活用に向けた取り組みを継続的に推進することにより、持続可能な社会に貢献してまいります。

〈環境基本理念〉

- この恵み豊かな地球環境を守り、健全且つ安全で自然環境を含む生態系が保全されることが人類共通の重要課題であると認識いたします。
- 株式会社不二家は「食」を通じて、人々の健全と安全を守るとともに、豊かさ、そして安らぎを育み、生活文化創造に貢献してまいります。
- 今後は、さらに事業活動のあらゆる側面で地球環境への負荷を最小限とするよう努力し、「環境との調和」を図るよう努めて、人と自然との共生を図り、「地球環境にやさしい企業」を目指して行動してまいります。

〈環境基本方針〉

1. 事業活動、商品、業態、サービスなどがかわる著しい環境側面を常に認識し、環境汚染の予防を推進するとともに、技術的、経済的に可能な範囲で、環境目的、目標を定めて、環境保全活動の継続的な向上、改善を図ります。
2. 環境関連の法律、規制、協定などの厳守はもとより社会要請に応える環境管理体制の整備と充実を図ります。
3. 事業活動における省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、リサイクルおよび環境汚染物質排出量の削減に取り組みます。
4. 地球における緑化、環境美化活動、環境保全への支援、活動に取り組みます。
5. 全従業員に対して環境教育や啓蒙活動を積極的に行い、環境保全に関する意識向上を図ります。

環境マネジメント

【環境マネジメント体制】

不二家では、環境方針を軸にISO14001に基づく環境マネジメントシステムを運用し、環境マネジメント体制の強化と、迅速な行動・コミュニケーション強化を図るため、各工場を社長直轄の体制としています。また、各工場には「環境管理委員会」を設置し、省エネルギーや廃棄物削減等の目標達成のための取り組みとパフォーマンス達成状況や環境関連法規の改正、遵守状況を毎月確認し、組織的に推進することで、継続的な改善を図っています。

さらに、全工場間の環境情報や取り組みを共有する目的で、「環境管理担当者会議」を定期的開催し、目標や課題への具体的解決策を検討し改善への行動に結び付ける環境マネジメントを推進しています。



内部環境監査・ISO14001:2015年版対応

ISO14001 認証取得工場ではISO14001:2004年版の規格に基づき、不二家の内部環境監査員資格を持った監査員が、工場毎に相互に連携して内部環境監査を行い、環境マネジメントシステムが適切に実施、維持されていることを確認しています。

内部環境監査の結果は経営層に報告し、環境マネジメントレビューの際の重要な資料となります。

現在は、ISO14001:2015年版の移行審査に向け規格に対応した運用に取り組むとともに、内部環境監査員の研修を行なうなど、準備を進めています。

ISO14001 認証審査



ISO14001 認証審査の様子(埼玉工場)



ISO14001 認証審査の様子(秦野工場)

環境教育・緊急事態訓練

環境マネジメントシステムの運用には、システムを運用する従業員一人ひとりの意識向上、適切な知識が欠かせません。ISO14001 認証取得工場では、全従業員を対象とした環境教育を実施して、環境保全に関する知識レベルの向上に努めています。また、各事業所では、災害・事故などによる環境汚染の防止及び緩和を図るため、対応の手順を定めるとともに、緊急事態を想定した訓練・テストを定期的実施しています。



環境教育の様子(平塚工場)



緊急事態訓練の様子(平塚工場)

担当者の声

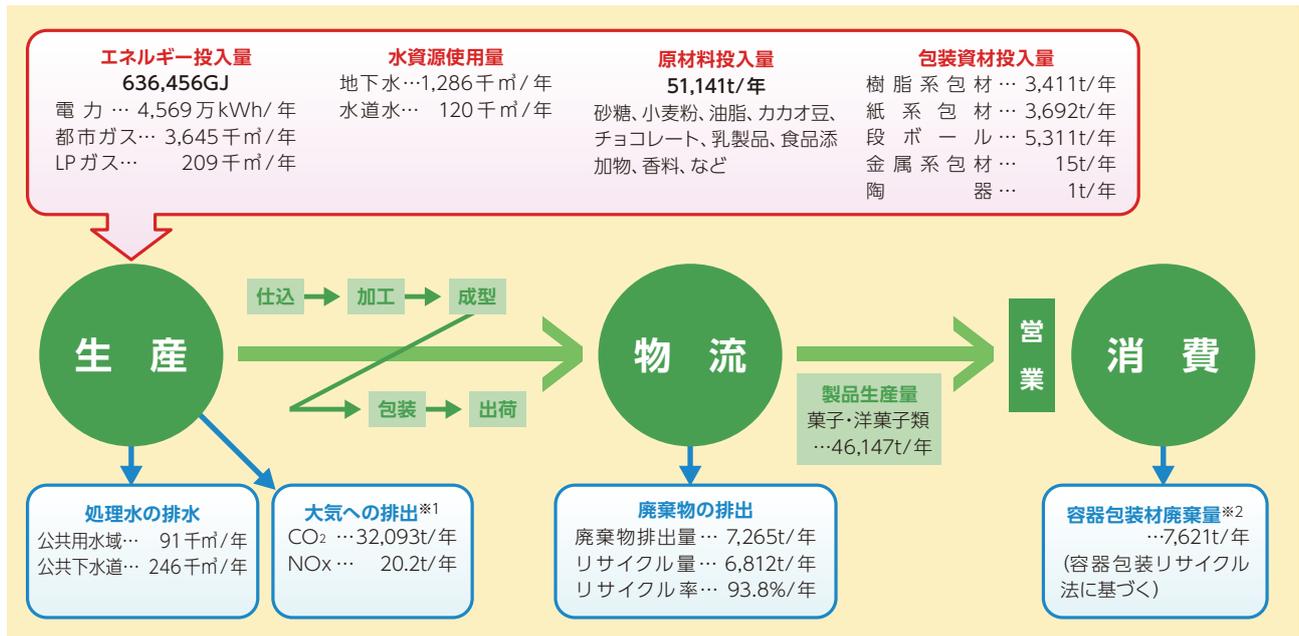


平塚工場 原料加工課 係長
櫻井 卓也

平塚工場では、植物油とチョコレートの漏洩を想定した緊急事態訓練を行っています。漏洩事故が発生すると、排水溝から汚泥などが流出し、土壌や水質などの環境汚染につながります。緊急事態訓練では、排水溝への流出を防ぐため、排水溝栓や吸着剤などの流出防止器具の確認を行っています。また、従業員が緊急時に冷静で適切な対応がとれるよう、実際に漏洩が発生したと想定して、緊急時対応手順に沿った実践訓練を行っています。これからも訓練を通じて環境保全への意識を高め行動が出来るように取り組んでいきます。

● 事業活動のマテリアルバランス

2017年度5工場(秦野工場、平塚工場、富士裾野工場、野木工場、埼玉工場)のマテリアルバランス(2017年1月~2017年12月)



※1:投入されたエネルギーについてCO₂を算出しています。

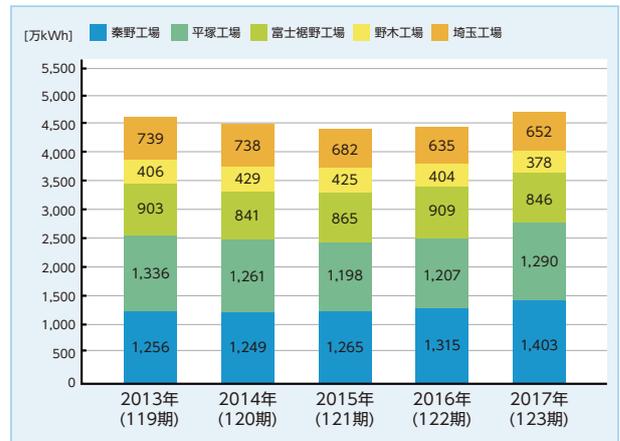
※2:容器包装材廃棄量は、不二家全体(飲料を除く)の2016年度実績になります。

省資源・省エネルギーへの取り組み

【エネルギー使用量の推移】

不二家は各事業所・工場において、省エネルギー設備の導入・運転の合理化や空調設備の運転方式の改善など省エネルギー対策に努めています。今後も、設備の整理統合や新技術の導入検討などエネルギー使用量の削減や合理化に積極的に取り組んでいきます。

2017年度のエネルギー使用量として、2016年度と比較し電力の使用量は2.2%の増加、都市ガスの使用量は7.5%の増加、LPガスの使用量は2.8%の増加となっています。主な要因は前年と比較し生産量の増加に伴うエネルギーの増加によるものです。



電力使用量推移



都市ガス使用量推移



LPガス使用量推移

低炭素社会の実現

地球温暖化防止への取り組み

【CO₂排出量削減対策】

不二家の各工場では、CO₂の排出量削減対策として、冷凍・冷蔵機、空調機などの設備を環境負荷の低い設備へ順次、更新しています。

【富士裾野工場 AHUファンベルト変更による省エネ】

AHU空調機10台のファンベルトをVベルトからHFD(平ベルト駆動システム)ベルトに変更しました。

2017年8月から9月まで1ヶ月間の電力使用量を確認し、平均で前年比7%の削減効果を確認しました。7%の削減効果により、年間で電力使用量は73,581kWh削減、CO₂換算で36.8t-CO₂の削減になります。

※AHU(エアハンドリングユニット)・・・空調和機



工場におけるCO₂排出量と環境負荷効率の推移

各事業所における環境保全活動

【社会貢献活動】

不二家の各事業所では、地域社会との交流を図りながら、生物多様性の保全や環境美化活動に積極的に参加し、企業としての社会的責任を果たしています。

【秦野工場 「神奈川県環境保全功労者表彰(団体の部)」受賞】

神奈川県庁で行われた神奈川県環境保全(大気・水・土壌関係)功労者の表彰式にて、団体の部で不二家秦野工場が表彰されました。

秦野工場では、省エネやリサイクル等、環境負荷低減を目的とした取り組みをはじめ、より厳しい大気及び水質に係る自主基準を策定するなど、環境保全に積極的に取り組んでおり、また、循環冷却水として使用した地下水を再度地中に戻す市の地下水涵養事業に協力していることが評価されました。



表彰を受けた秦野工場

担当者の声



秦野工場 工務課 課長
丸山 智史

秦野工場では、以前より工場内で冷却水として使用した井戸水を再度地中へ戻す「涵養事業」に協力してきました。

秦野工場は、市内でも井戸水を非常に多く使用する事業所です。そのため、少しでも地域や環境保全に貢献できるよう涵養事業に取り組んできました。日本全国でも涵養事業は珍しい取り組みと聞いています。その改善に取り組み貴重な体験に感謝するとともに、今後とも環境保全活動に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

【泉佐野工場 クリーングリーン環境保全活動】

泉佐野工場は、食品メーカーの工場が集結している食品コンビナート内にあります。環境保全活動の取り組みとして、「クリーングリーン」を行っています。コンビナート内の会社がそれぞれ自社周囲の草むしりやゴミ拾いなどを行い、コンビナート内の環境を整備する活動です。年2回実施され、毎回多くの従業員が参加しています。



環境整備活動に取り組む泉佐野工場の従業員

【平塚工場 相模川 現地調査・清掃・植栽活動】

平塚工場では、地域環境保全活動の一環として、平塚地区環境対策協議会が主催し、毎年実施されている「相模川の現地状況調査、清掃 及び チューリップの球根の植栽」に参加しています。今年は、平塚市職員、小学生他、総勢167名の参加者とともに、「馬入ふれあい公園(お花畑)」やその周辺の清掃、植栽活動を行いました。



子供たちと一緒にチューリップの球根を植えました

清掃活動の様子

【本社清掃活動】

2013年より不二家本社ビル周りの清掃活動を毎週実施しています。店舗にお越しいただくお客様はもちろん、社外からのお客様、近隣住民の方々も大切なお客様と考えています。本社周りを清掃し美化活動を進めることにより、今後も地域社会に貢献できるように取り組んでいきます。



本社周辺清掃活動の様子

その他工場の地域社会への取り組み

- 深良川「アマゴの放流」への参加
- 五竜の滝清掃活動への参加
- 工場見学の受入
- ノーマイカーデー実施

トラスト活動(不二家ファミリー文化研究所)

【黒姫「ペコちゃんの森」】

不二家ファミリー文化研究所は、自然環境保護活動の一環として、荒廃した森を購入し、その森を整備保護していただける団体にトラスト活動として寄付しました。

また、購入し寄付した森は、寄贈先のご理解を得て、「ペコちゃんの森」と命名し、継続的に整備活動への支援・参加をしています。寄贈先は、環境保護団体「CCC自然・文化創造会議/工場(議長 倉本 聡氏、副議長 C.W. ニコル氏)」です。

この2,000坪強の「小さな森」は、熊笹や灌木の覆い茂った藪そのものでしたが、数年の手入れを経て、徐々に明るさを取り戻し、私たちは2012年にブナやミズナラを植樹しました。今後も定期的に不要な下草を伐採して地面に日光を導き、ブナやミズナラをはじめとする木や草が生い茂る明るい森を作っていくのが目標です。

自然に手を加えることによって、森にどのような変化が生じるのかを観察するのも、森作りの仕事のひとつです。私たちは、徐々に変化している「ペコちゃんの森」の様子を、定期的にウェブサイト内にてご報告しています。この森を通して、自然の力と人間の営みについて学びながら、森林の再生と保護、環境教育活動を継続して行っています。

【従業員による森整備活動】

不二家ファミリー文化研究所では、CCC自然・文化創造会議/工場様のご協力のもと、従業員有志による「ペコちゃんの森」の整備活動を定期的に行っています。

2017年は、7月8日(土)にペコちゃんの森整備を実施し、所長でもある社長の櫻井をはじめさまざまな部署から計31名の社員が参加しました。

今回の整備の目的は、植樹したブナの苗木を覆い隠している下草を刈り、日当たりを良くすることと、5月に補植した苗木の状況を確認することです。

初めて参加したメンバーは、作業開始前にペコちゃんの森がある「アフンの森」についてと森の中での注意事項や草刈り鎌の扱い方を教わりました。その他の参加者は、森に入ってからまず植樹した苗木を間違えて切り倒してしまわないようリボンで目印をつけ、いざ草刈りの開始です。夏の木漏れ日が降り注ぐ中、小川のせせらぎやウグイスの鳴き声を聞きながら、腰の高さまである雑草を刈っていきました。植樹した木々は、順調に成長している木もあれば、残念ながら場所によってうまく成長していない木もありました。最後には、苗木が見える状態にまで整備され、参加者たちは充実した表情で森を後にしました。



森について説明を受ける初参加者



刈り払いの様子



記念撮影

「ペコちゃんの森」森林整備活動報告 2017年7月
<https://www.fujiya-peko.co.jp/mori/forest/clean/>

Voice!

ペコちゃんの森の整備活動に参加するのは今回で2回目になります。今年は晴天にも恵まれ、降り注ぐ日光の下での作業は夏本番を感じ、木陰に入ると涼しい風に心身共に癒されました。去年の整備活動で手入れしたブナの木はこの1年で大きく成長しており、喜びと共に生命の力強さに驚きを感じました。

自分自身も入社して早くも一年が経ちましたが、ブナの木に負けずにエネルギーに頑張ろうと改めて思いました。また1年後、更に成長したブナの木に会えることを今から楽しみにしています。

経理本部管理部 豊 千明



経営マネジメント

不二家は、コーポレートガバナンスの強化・充実を経営の重要課題の一つとして位置づけ取り組んでいます。当社の「社是」および「経営理念」に基づき、不断の努力により新しい価値と需要を創造するとともに、徹底した改善に絶え間なく取り組み、収益を確保することで、当社の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を目指しています。

● コーポレートガバナンスと内部統制

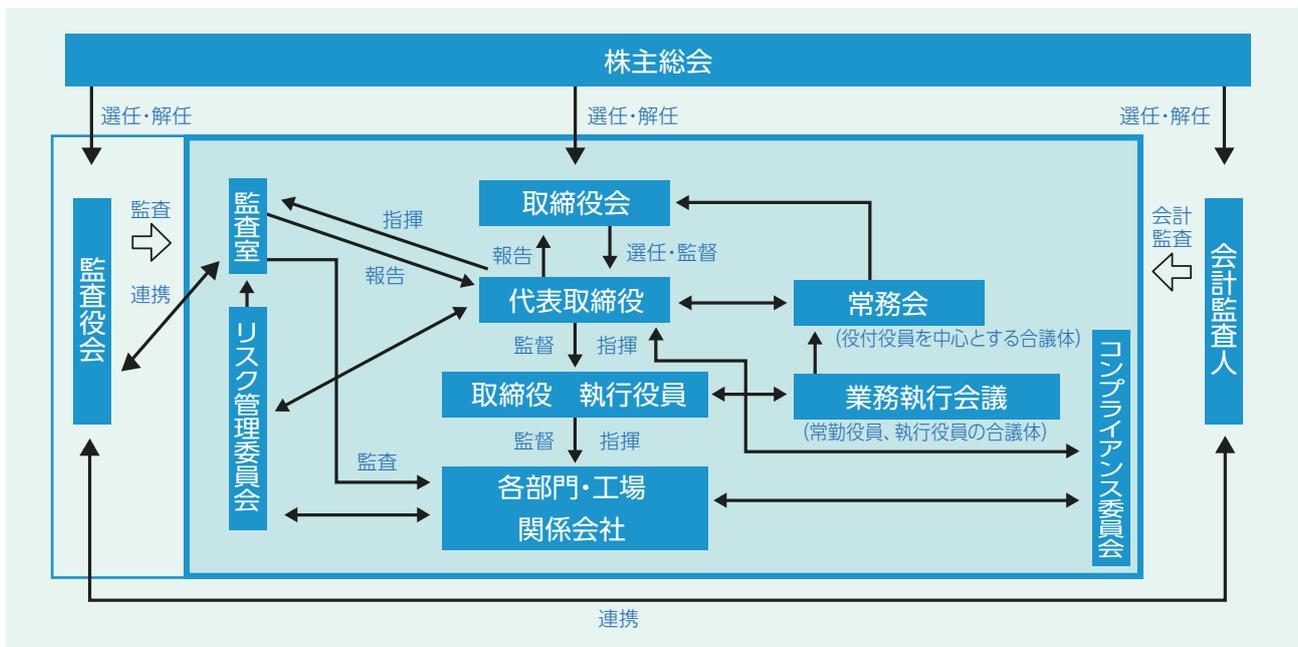
コーポレートガバナンス

不二家は、企業価値向上を目指すためには、株主をはじめとするすべてのステークホルダーとの健全な協働関係を構築することが不可欠であると考え、企業経営の透明性と効率性の向上を図るとともに、コンプライアンスおよびリスク管理の強化を推進し、ご満足いただける魅力的な企業の実現を目指しています。

業務の適正さを堅持するために、取締役会・監査役制度を強化し、グループ全体のガバナンス体制を構築しています。

「取締役会」を経営意思の最高決定機関として位置づけ、主要取締役による「常務会」と、取締役に加え執行役員も出席する「業務執行会議」を、毎月2回を基本に開催しています。これによりガバナンス強化とともに意思決定及び業務執行の迅速化を図っています。

また、関係会社の経営と業務推進の方針決定に資するため、不二家本体の経営陣と関係会社社長との協議機関として、関係会社経営報告会(社長会)を設置し、関係会社への監督・支援を実行しています。



2017年度内部統制システムの整備・運用状況

当社は、企業会計審議会の示す内部統制の基本的枠組みに準拠して、「内部統制システムの整備に関する基本方針」を制定および随時見直しをはかり、内部統制の整備・運用を行っています。

2015年5月1日に「会社法の一部を改正する法律」(平成26年法律第90号)及び「会社法施行規則等の一部を改正する省令」(平成27年法務省令第6号)が施行されたことに伴い、2015年7月29日開催の取締役会において「内部統制システムの整備に関する基本方針」の改定を決議し、改定しました。それに基づき、企業集団の業務の適正と監督および監査の実効性を確保するため、グループ会社すべての会社に派生するリスクに対して、今まで以上にあらゆる可能性を認識し対応できるよう体制を強化し、内部統制システムを運用しています。

また財務報告に係る内部統制についても、内部統制の基本的枠組みに準拠して整備運用していますが、財務報告への影響を勘案し、重要な虚偽記載の発生可能性がある事象に関しては個別に対応しています。

2017年度におきましては、再度システムを見直し、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を選定し、その中で自己点検や独立的评价を適正に実施しました。

今後も、業務の適正を確保するために、あらゆるリスクを想定し体制をさらに強化することにより、内部統制の有効性を確保し企業としての社会的責任を果たしていきます。

● コンプライアンス・情報セキュリティ

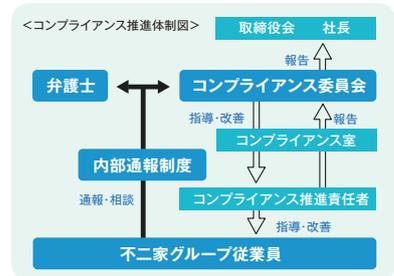
不二家はコンプライアンスを経営の基盤および重要課題と考え、公正かつ誠実な企業活動を行い、社会に対する責任を積極的に果たしています。

社会からの要請に応えるべく、コンプライアンスを「単なる法令遵守にとどめず、社内規程・ルールを守ることに加え、社会倫理にも適合していくこと」と捉え、企業価値向上を目指しています。

コンプライアンス推進体制

コンプライアンス活動を不二家グループ全体で徹底、推進していくため、取締役を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、全社的な方針の制定、事故発生時の原因調査と再発防止策の策定などを行い、その結果を必要に応じて社長、取締役に報告及び提案しています。コンプライアンス室ではコンプライアンスについての意識付けや啓蒙教育を継続的に実施しています。

また、内部通報（コンプライアンス・ヘルプライン）制度を導入し、当グループの社会的信頼の維持及び業務運営の公正性の確保に努めています。



2017年度のコンプライアンス教育

従業員のコンプライアンスマインドの醸成・啓蒙を、企業価値向上のために欠くべからざる最重要課題と位置づけ、コンプライアンス教育に継続的に取り組んでいます。

2017年度の教育は、5月から11月にかけて従業員のコンプライアンス意識の維持・向上を目的に、ビデオを混ぜて各事業所で実施しました。

教育の中では、ハラスメントのない働きやすく不正を許さない職場作りについて、情報共有を図り、従業員一人ひとりの意識向上を図りました。

また、新入社員研修、階層別研修、店舗トレーニングなどにおいても、コンプライアンスの基本について教育し、従業員の意識向上に努めています。

内部通報（コンプライアンス・ヘルプライン）制度

グループ各社内の法令違反などの未然防止と早期発見を目的として、内部通報（コンプライアンス・ヘルプライン）制度を導入しています。

この制度は、不二家グループ各社内にある事案や行動が、法令・社内規程・ルール等に違反するかどうかなど、コンプライアンスに関する相談窓口としても機能しています。

この制度を従業員が活発に利用できるよう、全従業員に企業理念や連絡先が入ったコンプライアンスヘルプラインカードを配布しているほか、外部弁護士への連絡窓口を設けることで、通報や相談がしやすい環境作りにも努めています。

情報セキュリティ対策

情報資産を過失、事故、災害、犯罪などの脅威から守り、社会とお客様の信頼に応えるため、情報セキュリティ基本方針を定めています。業務遂行上必要な情報資産について、適切なセキュリティ対策を講じ、不正アクセス、漏洩、改ざん、紛失・毀損などが発生しないよう予防を図っています。

問題が顕在化した際には、速やかに是正するように組織と体制を定め、その役割と責任者を明確にしています。また、関連諸規程並びに情報セキュリティ体制の評価と見直しを定期的・継続的に行い、適切に管理しています。

● リスクマネジメント

リスクマネジメント体制の整備

不二家は食品企業として、常に「食の安全」を最優先の課題とし、食品事故の未然防止と製品の安全性を向上させるため、AIB (American Institute of Baking) 国際検査統合基準による指導監査システムを導入するなど、徹底した食品安全管理体制の確立を図っています。

そのほか、事業活動に重大な影響を及ぼす恐れのある「経営リスク」・「事故・災害（環境）リスク」などに対して、事前にリスクの特定・分類・分析・評価を行い、適切に対応するために「リスク管理委員会」を設置し、迅速かつ最善の対応を図る体制を整備しています。また、必要に応じて、顧問弁護士などの専門家に助言・指導を求めています。

重大な製品事故や職場での災害リスクが顕在化した場合や、顕在化が予想される場合には、社長が委員長を務める「危機管理対策委員会」を召集し、迅速な対応を図る危機管理体制を整備しています。

東日本大震災を契機に、本社・工場では防災意識の向上と避難訓練を実施することはもちろんのこと、営業・工場の主要拠点14ヶ所に衛星電話を設置し、緊急時の連絡体制を整備しています。

不二家のあゆみ

創業の精神

横浜開港後の山下町に外国人居留地が、山手に山手居留地がそれぞれ設けられ、両地区を結ぶ場所にあった元町通りには、当時は日本には珍しい喫茶店やベーカリー、洋服店、洋風家具店などが軒を連ね、文明開化を支えました。

そんな新しい文化を、いち早く吸収してきた街、横浜元町で創業したのが不二家です。当時ではとてもモダンなローマ字「FUJIYA」の看板を掲げ、1910年に創業した不二家は、「進取の気鋭」で栄えてきました。

不二家の作った菓子は、居留者の外国人にとっては『懐かしい母国の味』、横浜に住むマダムにとっては『珍しくて新しい文明開化の味』でした。不二家の商品や喫茶を楽しむ時間は、彼女たちの至福の時間でした。

不二家は、ただ単に食料を売っていたのではなく、海外の菓子や喫茶を通して、「心の豊かさ、笑顔の生まれる時間」を提供していたのです。

年	主な出来事
1910年	藤井林右衛門(25歳)が横浜市元町2丁目86番地に洋菓子店を開店
1918年	シュークリーム、エクレアなどの販売を始める
1922年	ショートケーキの販売始める(1個8銭) クリスマス製品も販売する
1923年	銀座6丁目店開店
1934年	フランスキャラメル発売
1935年	チョコレート・キャンディの生産開始 ハートチョコレート発売
1938年	株式会社第二不二家を設立 資本金20万円 合名会社不二家を合併 資本金60万円 株式会社第二不二家の商号を、株式会社不二家と改称
1950年	不二家のアイドル「ペコちゃん」誕生 年齢6歳
1951年	ミルクィ発売 「ペコちゃん」のボーイフレンドとして「ポコちゃん」誕生する 年齢7歳
<p>ミルクィがヒット</p> <p>1951年、水飴と練乳、この二つの製菓材料を使用し、洋菓子製造で得た乳の知識を生かしてようやく完成させた新しい味が「ミルクィ」でした。練乳を50%近く使い、思い切ってまるやかな味を出した、全く新しいおいしさ、豊富な栄養、廉価という3拍子が揃った当時としては信じられないほど贅沢で新しいお菓子でした。この商品は「ミルクィ」と名づけられ、洋菓子店で販売するや否や、たちまち話題になりました。当時から、洋菓子店店頭に飾られ人気を得ていた「ペコちゃん」をパッケージに使ったことも功を奏し、大ヒット商品となりました。創業者の藤井林右衛門は、多くの子供たちに、おいしくて栄養のある菓子を届けたいという想いから設備を整え、1952年から一般流通への卸売(全国発売)を始めました。「ミルクィ」は洋菓子屋として創業した不二家が、卸売事業に参入するきっかけになった商品でした。</p>	
1952年	ソフトクリーム国産第1号を銀座6丁目店で売り出す クリスマスセール開始
1954年	パラソルチョコレート発売・ポップキャンディ発売
1956年	バレンタインセール開始
1959年	平塚工場(神奈川県平塚市)完成
1960年	モンドセレクション当社第1回の商品出品で金賞をとる
1962年	東京、大阪、名古屋の各証券取引所市場第二部に株式上場 ルックアラモード発売 札幌工場(北海道札幌市)完成
1963年	フランチャイズ第1号店 京都伏見店開店
1964年	ネクター発売
1965年	東京、大阪、名古屋の各証券取引所市場第一部に株式上場 オバQシリーズ発売
1968年	ホワイトデーセール開始 ノースキャロライナ発売・ホームパイ発売 秦野工場(神奈川県秦野市)・埼玉工場(埼玉県新座市)完成
1969年	野木工場(栃木県下都賀郡野木町)完成
1971年	泉佐野工場(大阪府泉佐野市)完成
1972年	英国ロントリーマッキントッシュ社と技術援助契約を締結(現在は契約解消)



不二家のあゆみ

年	月	主な出来事
1973年		キットカット発売 ビーアールジャパン株式会社(現B-Rサーティワンアイスクリーム株式会社)を設立し、アイスクリームチェーンに着手
1976年		米国ペプシコ社と合併会社不二家フリトレー株式会社を設立、スナック食品部門に進出(現在は契約解消)
1978年		株式会社不二家ロードサイドレストラン(現株式会社不二家フードサービス)を設立 ロードサイドレストラン1号店 川口青木店開店
1979年		米国ハーシーフーズと技術援助契約及び輸入総代理店契約締結(現在は契約解消) ピーナッツチョコレート発売
1982年	3	仏国ソシエテ・ヌーベル・ダロワイヨ社と技術援助契約及び輸入総代理店契約締結 自由が丘にダロワイヨ1号店を開店
	11	フランチャイズチェーン導入の貢献により通商産業大臣賞受賞
1984年	7	カントリーマアム発売
1989年	6	不二家とネスレ社との間で合併会社ネスレマッキントッシュ株式会社を設立(現在は契約解消)
	10	株式会社ダロワイヨジャポン設立
1990年	6	富士裾野工場(静岡県裾野市)完成
	—	アンパンマン商品発売
1992年	—	ネクター食品ヒット大賞「ロングセラー賞」受賞(日本食糧新聞社主催)
1994年	6	「ペコちゃんのほっぺ」発売
	11	九州工場(佐賀県神埼郡吉野ヶ里町)完成(現吉野ヶ里工場)
1997年	4	不二家ウェブサイト開設
1998年	5	不二家キャラクター人形の「ペコちゃん」「ポコちゃん」が立体商標第一号として特許庁より認められる
2000年	2	「環境宣言」の制定 /ISO14001 認証取得の取り組み開始
	5	容器包装リサイクル法に対処
	9	ネスレマッキントッシュ株式会社の株式売却
	11	埼玉工場 全ボイラーを小型貫流ボイラーに転換
	12	富士裾野工場 廃棄物焼却炉廃止
2001年	3	カフェテリアプラン制度導入
	4	富士裾野工場 ISO14001 認証取得
	8	埼玉工場 全小型貫流ボイラーを都市ガス化
2002年	4	平塚工場、秦野工場 ISO14001 認証取得
	10	埼玉工場 廃棄物焼却炉廃止
	11	「不二家 行動規範と行動指針」の制定
	12	野木工場 廃棄物焼却炉廃止
2003年	3	平塚工場 全小型貫流ボイラーの都市ガス化
	4	野木工場 ISO14001 認証取得
	4	不二家ファミリー文化研究所設立(以下ファミ文研という)
	6	大阪、名古屋 各証券取引所への上場廃止
	7	コンプライアンス委員会設置・コンプライアンス規程制定
	7	環境報告書を初めて発行
	8	ファミ文研 ペコちゃんの森トラスト活動開始
	10	埼玉工場 ISO14001 構築・運用開始
2004年	2	不二家(杭州)食品有限公司を中国現地法人として設立
	6	秦野、平塚、富士裾野各工場を統合し湘南工場発足
	10	埼玉工場 ISO14001 認証取得
2005年	7	個人情報保護基本規程制定
	7	ISO9001 認証取得の取り組み開始
	12	秦野工場 全小型貫流ボイラーの都市ガス化



不二家のあゆみ

年	月	主な出来事
2006年	1	「品質方針」の制定
	3	泉佐野工場 廃棄物焼却炉廃止
	4	定年退職者再雇用制度開始
	6	ISO9001 認証取得(菓子事業本部、品質保証部、調達部)
	10	秦野工場 汚水処理施設の汚泥減容化装置を稼動開始
	10	泉佐野工場 ISO14001:2004 認証取得
	10	湘南工場を菓子3工場(秦野工場、平塚工場、富士裾野工場)に組織分離
2007年	1	「『外部から不二家を変える』改革委員会」発足
	1	「信頼回復対策会議」発足
	1	富士裾野工場 ボイラー・オープン設備を都市ガス化 (環境省:自主参加型国内排出量取引制度に菓子業界として初の参加)
	2	AIB フードセーフティの取組開始
	2	山崎製パン株式会社と食品安全管理体制整備の支援に関する覚書を締結
	2	秦野工場・平塚工場・富士裾野工場 AIB 監査 一定の評価を得る
	3	山崎製パン株式会社と業務資本提携を締結
	3	埼玉工場・泉佐野工場・九州工場・野木工場 AIB 監査 一定の評価を得る
	4	山崎製パン株式会社に対する第三者割当増資を実施
	5	「外部から不二家の発展を見守る会」発足
	6	CSR 推進部・食品安全衛生管理本部設置/内部統制システム構築着手
	7	フード連合様を通じ菓子製品在庫の無償提供を実施
12	「企業理念」「行動規範」改訂	
2008年	1	ISO9001 認証登録維持・継続 (菓子事業本部、食品安全衛生管理本部、秦野工場、平塚工場、富士裾野工場、施設部、購買部)
	1	「不二家食品安全の日」制定・第1回「不二家食品安全の日」式典
	4	内部統制システム運用開始
	6	本社部門移転に伴い、本店所在地変更
	6	富士裾野工場 CO ₂ 排出枠(2007年度分) 300tを償却 (環境省:自主参加型国内排出量取引制度)
	10	食に関するオピニオンリーダーによる工場見学(秦野工場) 実施
	11	山崎製パンと新たな業務資本提携を締結(山崎製パンの子会社となる)
2009年	1	第2回「不二家食品安全の日」式典
	2	埼玉工場で「不二家生産方式」の確立に向けた「本物の5S」活動キックオフ
	3	野木工場で「不二家生産方式」の確立に向けた「本物の5S」活動キックオフ
	5	富士裾野工場が食品リサイクル率100%を達成
	6	平塚工場操業50周年記念式典
	8	平塚工場で「不二家生産方式」の確立に向けた「本物の5S」活動キックオフ
	8	銀座ペコちゃんミュージアム開催(期間限定:8/24~9/6)
	9	障がい者雇用優良事業所表彰を受ける
	2010年	1
1		平塚工場が食品リサイクル率100%を達成
2		富士裾野工場が「食品産業CO ₂ 削減大賞」(主催:㈱日本総合研究所 後援:農林水産省) 優良賞を受賞
4		「本物の5S活動発表大会」開催
4		埼玉工場 埼玉県食品衛生自主管理優良施設として確認票交付
創業100周年記念事業		
8		「ペコちゃんの歌」発表(作曲・編曲:久石譲、作詞:久石麻衣)
8		「ペコちゃんスマイルコンテスト」最終審査&授賞式
9~10		「ペコちゃんが行く!不二家キャラバン隊」(児童施設77ヶ所訪問)
11		「おしゃべり店頭ペコちゃん人形」登場
11		「銀座ペコちゃんミュージアム」開催(期間限定:11/1~11/21)
10	「第2回本物の5S活動発表大会」開催	
11	秦野工場が「神奈川県地域共生型工場等」として神奈川県より表彰	



不二家のあゆみ

年	月	主な出来事	
2011年	1	第4回「不二家食品安全の日」式典	
	4~5	ペコちゃん被災地訪問(福島県いわき市、岩手県、宮城県)	
	7	夏場の節電対策実施	
	8	「銀座ペコちゃんミュージアム」開催(期間限定8/19~9/4)	
	12	「銀座ペコちゃん・Winter shop」開催(期間限定12/10~12/25)	
2012年	1	第5回「不二家食品安全の日」式典	
	1	東日本大震災時の食糧支援に対し、農林水産省より表彰	
	3	第1回「不二家防災の日」式典	
	6	埼玉工場で火災発生	
	8	銀座ペコちゃん サマーフェスタ開催(8/24~9/2)	
2013年	1	第6回「不二家食品安全の日」式典	
	1	「スマイル運動」開始	
	3	8期ぶりに復配	
	4	ひろしま菓子博2013に参加	
	6	第2回「不二家防災の日」式典	
	8	銀座ペコちゃん サマーフェスタ開催(8/23~9/1)	
2014年	1	第7回「不二家食品安全の日」式典	
	2	『「スマイル運動」推進のための5S活動報告会』開催	
	4	株式会社スイートガーデンが不二家の完全子会社化	
	6	第3回「不二家防災の日」式典	
2015年	1	第8回「不二家食品安全の日」式典	
	5	ミラノ万国博覧会のサテライト企画にペコちゃんが協力	
	6	第4回「不二家防災の日」式典	
	7	平塚市美術館にて「ペコちゃん展」開催(7/11~9/13)	
	11	「カントリーマムFACTORY」ららぽーとEXPOCITY店がオープン	
2016年	1	第9回「不二家食品安全の日」式典	
	2	日本食料新聞社より「ミルクィー」がロングセラー特別賞を受賞	
	6	第5回「不二家防災の日」式典	
	9	東日本大震災被災地支援食品販売会を実施	
	12	ペコちゃん被災地訪問(熊本県上益城郡、菊池郡)	
	12	台湾にFC一号店オープン	
2017年	1	第10回「不二家食品安全の日」式典	
	4	お伊勢さん菓子博2017(4/21~5/14)に参加	
	6	第6回「不二家防災の日」式典	
	9	文京区子ども宅食プロジェクトに協力	
	10	野木工場「栃木地方産業安全衛生大会」で表彰	
	11	秦野工場「神奈川県環境保全功労者表彰」で団体表彰	
2018年	1	DALLOYAU(ダロワイヨ)の日本国内における商標権を取得	
	1	第11回「不二家食品安全の日」式典	



株式会社 不二家

〒112-0012 東京都文京区大塚 2-15-6

ウェブサイト <https://www.fujiya-peko.co.jp/>



© FUJIYA CO., LTD.

■お問い合わせについて

お便りの場合：〒112-0012 東京都文京区大塚2-15-6 株式会社不二家 広報CSR部
Eメールの場合：不二家ウェブサイト内のお問い合わせ専用フォーム内をご利用ください。

本報告書記載記事の
無断転載・複製を禁じます。